

淨清 淨林の弟なり、兄弟とも織部公○古田重勝に隨て關東へ行、淨林は江戸に足をとゞめ御釜師となる、淨清は京へ歸りて住す、

淨元 淨清の子なり

淨頓 淨元の子なり

淨入 淨頓の子なり

淨元 淨入の子なり、此人より道爺死後、千家へ出入の釜師となるなり、

淨玄 淨元の子なり、碎啄時代、

清右衛門 淨元の子也、早世ゆへ弟子奥平佐兵衛家を嗣、

淨元 奥平佐兵衛了雪入道といふ、其子清右衛門大西姓に歸る、

佐兵衛 奥平氏了雪入道の弟なり、

淨西 大西氏

頓入 廣瀬氏

〔釜師由緒并釜之圖〕京作ハ、利休時代、京師天下一辻與次郎ト號、藤左衛門、彌四郎利休釜形付始テ鑄、道仁ガ弟、

阿彌陀堂、雲龍釜、四方釜ハ、與次郎、尻張ハ彌四郎、丸釜ハ藤左衛門

其後三人シテ種々形釜ヲ鑄ル、一旦與次郎ハ、太閤秀吉公ノ釜師三人之隨一也、上手也、利久時代釜ノ出來能ヲ與次郎ト極ム、藤左衛門、彌四郎作共ニ與次郎與極ム、其外之作ハ利休時代ト極ム、

〔明和京羽二重三〕御釜師

三條釜座町 名越淨味 同町 釜師道耶 西堀川六角下ル町 高橋因幡

〔茶道釜蹄三〕釜の箱之事